

板橋区青少年問題協議会記録 (平成22年度第1回全体会)

1 日時 平成22年4月26日(月) 午後3時～午後4時30分

2 場所 板橋区役所教育委員会室

3 出席者

板橋区青少年問題協議会委員(敬称略)

坂本健、川口雅敏、大田ひろし、太田政男、須永一男、善本久子、猪田佳一、高田教子、高田修、高野佐紀子、日比野幸男、三井昭夫、酒井律子、魚住善彌、北川容子、中村一芳、茂木良一

4 内容

① 委嘱状交付

② 区長あいさつ

③ 議事

i 青少年問題協議会副会長の選出

ii 今期の検討課題選定

iii 今後の検討スケジュール・青少年問題協議会小委員会設置について

④ 意見交換

5 会議録

① 委嘱状交付

【生涯学習課長】 本協議会の概要につき説明させていただきます。この青少年問題協議会は、地方青少年問題協議会法に基づき、区の条例で設置されている区長の附属機関であります。そして、次の様な独自の性格をもっております。

まず、青少年問題に関する総合施策の樹立について、必要な重要事項を調査審議するものです。それから、総合的施策の適切な実施を期するために必要な関係行政機関相互の連絡調整を図ります。最後に、これらの事項に関して、区長及び区内にある関係行政機関に対しまして意見を述べることができます。

なお、この地方青少年問題協議会法に基づきまして、この協議会の会長は自治体の長である区長であるという旨が法律で規定されております。

なお、本会議の公開につきましては、板橋区青少年問題協議会要綱に基づきまして公開とさせていただきます。ただし、会議の公正かつ円滑な審議が阻害され、会議の目的が達成されなくなるおそれがある場合には、会長は委員の意見を聴き、一部または全部を非公開にすることができます。また、公開の方法は、会議の傍聴、会議の記録及び会議資料の閲覧の機会を提供することにより行います。

本日は、今のところ傍聴者の方はいらっしゃいません。

また、会議録を作成し、公表いたしますので、録音についてご了解いただきたいと存じま

す。

本日は、第1回目の会合でございますので、最初に当協議会の会長であります、坂本健板橋区長より、委員の皆様にご挨拶をお渡ししたいと思います。お1人ずつお名前をお呼びいたしますので、その場でお受け取りください。

—委嘱状交付—

【生涯学習課長】 それでは、続きまして坂本区長よりご挨拶をいただきたいと思ひます。

② 区長あいさつ

【坂本区長】 今期の青少年問題協議会につきましては、地域が支える中高生の健全な育ちと自立への方策についてご検討いただく予定でございます。青少年を取り巻く環境は大変大きく変化をしております。板橋区でも、青少年の社会的自立の遅れ、あるいはコミュニケーション能力の低下等、問題が少なからず起きている状況でございます。

子供達の健やかな成長は私達大人の願ひでもございますし、自ら考へて正しく判断でき、生きる力を持った子供達を育成するために、私達大人が自分の役割と責任を自覚をしなければならぬのは言うまでもないことだと思ひます。

板橋区青少年の健全育成に関する取り組みにつきましては、青少年健全育成地区委員会が中心となって長年取り組んでいただいております。明日の板橋を担う青少年の育成は、学校や家庭のみが担うのではなく、地域や行政も共に連携、協力、共同しながら取り組む必要があると思ひます。その意味におきましても、地域の青少年健全育成がますます重要化となっております。地域の健全育成の有り方、及び具体的な政策について、ご検討いただくその中で、ご意見を今後の青少年健全育成活動に反映してまいりたいと考へてございます。皆様方の特段のご理解とご協力をお願いしまして、ご挨拶いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

③ 議事

【坂本健会長】 板橋区青少年問題協議会条例によって、協議会に副会長を置く規定がございます。副会長の選任をお願いしたく存じます。選出につきましては、委員の皆様方の互選によることとなっておりますが、いかがいたしましょうか。

事務局で提案はございますか。

【生涯学習課長】 本日が初めてのお顔合わせという状況でもございますので、大変借越ではございますが、事務局より提案させていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

【生涯学習課長】 それでは提案させていただきます。副会長には大東文化大学教授であります太田政男委員をお願いしたいと考へております。

【坂本健会長】 事務局から、太田政男委員を副会長に推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

【坂本健会長】 ありがとうございます。ご異議がないようでございますので、太田政男委員に副会長をお引き受けいただきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

次の議題といたしまして、「今期の検討課題について」でございます。これについて、まずは事務局から説明を願いたいと思います。

【生涯学習課長】 検討テーマでございますけれども、「地域が支える中高生の健全な育ちと自立への方策」ということで考えております。

選定の理由として、情報化の急速な進展、就労の不安定化など、青少年を取り巻く環境が大きく変化しております。このような状況の中で、不登校、ひきこもり、ニートなど、青少年の社会的自立の遅れが問題になると共に、最近の暴力行為の増加から、青少年の規範意識やコミュニケーション能力の低下が懸念されております。

板橋区の青少年の健全育成に関する取り組みは、長年、区内18地区に分かれておりますそれぞれの青少年健全育成地区委員会が中心となり、地区内すべての子供を対象にしたスポーツ、野外活動等、活発に行ってきております。

また、最近では、保護者や地域ボランティアにより、小学校を拠点とした活動、例えば「いきいき寺子屋」事業や、「あいキッズ」等の活動も定着しつつあるところです。

一方、中学生、高校生につきましては、部活動や受験による多忙、通学区域の拡大などにより地域行事と疎遠になる傾向が見られ、また、地域そのものと疎遠になる傾向が見られるところでございます。

先程申し上げました青少年の健全育成地区委員会の活動でも、実際に対象となるのは小学生が中心でございます。中高生向けの事業がなかなか行いにくい、行ってもなかなか集まりにくい状況がございます。中学・高校生の時期は親から自立し、大人の仲間入りをする大切な時期でもあります。中学・高校生が、規範意識やコミュニケーション能力を培い、自立への意欲を持って成長していくことを支援するために、地域の健全育成の有り方、及び具体的な方策を検討する必要があります。

こういう理由に基づきまして、この検討テーマがあるわけですが、まだ、この検討テーマでは大きなテーマでございますので、実際これを検討していくに当たって、2つの課題を中心にご議論をしていただくたく考えております。

まず1点目が、中高生の地域での居場所、活躍の機会づくりについてでございます。これにつきましては、国の中央教育審議会等の資料より、青少年に多様な体験を提供する場や機会を作った方がいいだろうということであったり、社会との関係の中で、自己実現を図った大人の生き方から学ぶ機会を提供するという必要があるだろうということであったり、または、地域の大人が地域の青少年の成長に継続して係わることのできる場や機会を広げ、その連携を進めた方がいいでしょうといったことが提言されているところでございます。

これらの提言で、キーワードとして使われているものが、地域に、こういう青少年、中高生が集う場、それからそういう機会が必要であるということでございます。それを、こちら

では、表現としまして「居場所」と表現しているところでございます。こういう居場所がどうやったらできるのかということです。

それから2点目の課題としまして、中高生を地域での居場所に惹きつけるための方策や考え方ということで、そういう場や機会、すなわち居場所ができたとしても、そこに中高生が集まって、そこで過ごしていただけないわけでは、また、そこで地域の大人達と色々なつながりが持てなければならぬわけでは、また、そういう場所に彼らが来るための、惹きつけるための方策や考え方はどういったものがあるか。この辺が中心になるのではないかと考えているところでございます。

簡単ではございますけれども、今期の検討課題につきましての説明を終了いたします。

【坂本健会長】 ただいまの事務局からの説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

【高田修委員】 私は青健連合会の関係者の1人でございまして、今、説明があったように、板橋には18の地区があります。全てを網羅しているわけですが、それぞれの地区で青少年の健全育成活動をしているのですが、なかなか実態に伴わないといえますか、活動がなかなか実を結ばないものがたくさんあるわけです。

常々、18の地区の会長には、問題点とか、それから成功している例とか、そういうものを出し合って、良いものは取り入れていく、それから、問題点はみんなで解決していこうということを積極的に進めています。現状は、特に青健の活動については、色々な団体がたくさん入って、それぞれが活躍をしているのですが、日時の問題、それから活動内容についても重複しているものがたくさんあるのです。

今、区でも地域会議等を進めていますが、それを有効活用するにはどうしたらいいかということからすると、特にこれからの社会を担う中高生に対して板橋区はもっともっと力を入れていくべきだろうということが、青健連合会としては常に提案しているところです。

中学校の卒業式に出ると一番よく分りますが、しっかりとした卒業生がたくさんいます。しかし、そうした生徒がいつの間にか消えて、目立たないというか、活躍の場が見られなくなります。

また、地域の中に、色々なスポーツの関係者、選手、それから芸能関係の人、音楽関係の人、歌手等々がたくさんいます。そうした人達を有効に地域のために、ひとつ貢献してほしいとお願いをして、青少年の居場所ができれば、そこに地域の人材は全てボランティアで、スポーツ関係から芸能関係からお茶からお料理から音楽から、弁護士から教職員から、全ての人材が地域のために時間があるから協力してもいいよという話を、ある程度まとめたことがあるのです。

ところが、その場所がないです。区の空き施設がないかという話をしたこともあるのですが、なかなかないということで、一旦まとめたものが、結局そのままずっともう大分経っているわけです。

今回、このような形で、板橋から非行の子供達を出さないという意味からすると、こうした中高生の居場所というものを、活躍する場所というものはどうしても必要だなということを常々考えております。今回の課題の中に入っているということで、ぜひ、これは実現して

いただきたい。

また、惹きつけ方というのは、地域の人達は色々なノウハウを持っていますから、人集めというのは非常に難しいですけれども、やり方によっては集まる。ですから、物事は人集めとお金集めができれば成功です。ですから、人集めについては地域である程度のノウハウを持っていますから、教えてくれる大人、そして中高生の子供と、高齢者・大人との交流を深めることによって地域の足並みができるし、板橋の教育にも寄与できるのではないかなというのを常々考えておりますので、こうした案が出たことは非常にいいことだと思って発言をさせていただきました。よろしく願いいたします。

【坂本健会長】 今、高田修委員から、青健活動を通じた問題点と、また、これから向かっての力強い言葉があったわけでございます。

【坂本健会長】 それでは、今期の諮問事項につきましては、「地域が支える中高生の健全な育ちと自立への方策」といたしまして、①中高生の地域での居場所（活躍の機会）づくりにつきまして、及び②中高生を地域での居場所に惹きつけるための方策や考え方を中心に意見交換していくことをご了承いただけますでしょうか。

(異議なし)

【坂本健会長】 ご異議がないようでございますので決定とさせていただきたいと思えます。それでは、検討課題が決まりましたところで、次の議題に移りたいと思えます。

「今後の検討スケジュールと青少年問題協議会小委員会設置について」でございます。これにつきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【生涯学習課長】 本日が今期1回目の会合です。2回目を5月26日（水曜日）に開催したいと予定しております。3回目以降につきましては具体的な日時は決まっておりませんが、9月まで課題についてご検討をいただき、「中間のまとめ」をお願いしたいと考えております。

「中間のまとめ」につきましては11月に区の広報、ホームページなどで公表いたしまして、パブリックコメントとして広く区民の皆様からもご意見を頂戴する機会を設けてまいりたいと考えております。また、この時期にあわせまして、教育委員会、区議会の皆様からもご意見をいただく機会を設けたいと考えております。

その後、パブリックコメントなどでお寄せいただいたご意見なども踏まえ、さらに委員の皆様にご検討をお願いし、最終的には今年度末、平成23年3月に検討結果をまとめていただくという予定で進めたいと考えているところでございます。今後のスケジュールにつきましては以上です。

また、協議会の開催形態について青少年問題協議会要綱に基づき、青少年問題を専門的かつ具体的に協議するために、必要に応じて部会（小委員会）を置くことができます。

大変僭越ではございますが小委員会の委員の案を資料3の通り、提案させていただきたいと存じます。

【坂本健会長】 それでは、ただいまの説明に対しまして、ご質問ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

【坂本健会長】 事務局から、小委員会の委員について、資料3のとおり提案がございましたが、皆様、この件につきまして、いかがでしょうか。

(異議なし)

【坂本健会長】 ご異議がないようでございますので、決定とさせていただきます。

平成23年3月を目途にいたしまして、この協議会としての意見をまとめていくということで検討を進めてまいりたいと思いますので、皆様、よろしくご協力をお願いしたいと思います。

続きまして、板橋区青少年問題協議会要綱によって、小委員会に座長を置く規定がございます。座長の選出をお願いしたいと存じます。選出につきましては、委員の皆様方の互選によることとなっておりますが、皆さん、いかがいたしましょうか。

事務局から提案がございましたら、どうぞお願いいたします。

【生涯学習課長】 大変僭越ではございますが、事務局より提案させていただきたいと思っております。座長には、副会長であります太田政男委員をお願いしたいと考えております。

【坂本健会長】 事務局から、小委員会座長に太田政男委員の推薦がございました。皆様いかがでしょうか。

(異議なし)

【坂本健会長】 ありがとうございます。ご異議がないようでございますので、太田政男委員に座長をお引き受けいただきたいと存じます。

④意見交換

【坂本健会長】 続きまして、この後は意見交換ということで、皆様からお話を伺ってまいりたいと考えております。今期は、「地域が支える中高生の健全な育ちと自立への方策」を検討するに当たりまして、地域での居場所、あるいは活動の機会などについて、ご経験の中から、あるいは今後の期待なども含めてで構いませんのでお聞かせ願えればと思っております。

場合によりましては上手くいかなかったという内容もあったと思います、あるいは注意しなければならないこと、そういうものにつきまして日頃お感じになっていることにつきまして、率直な話をぜひとも、この際にお伺いしたいと考えてございます。今後、検討を進める上で良いヒントになるかと思っております。

【太田政男委員】 太田政男と申します。大東文化大学の文学部、専門は社会教育、最近は、

生涯学習と言っております。

社会教育は実践的な学問でございますけれども、あちこち歩きながら研究をするスタイルが多いです。そういう意味では、僕もあちこち全国を歩いています、地元の人達とは余り勉強して参りませんでしたので、これを機会に、皆様にも色々教えていただき、自分も学びながら一緒にできればと。あるいは、答申の作成に向けてご協力いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

今、僕自身は、一方では、不登校・ひきこもりの若者達の、様々なNPO、フリースクール、居場所がございますけれども、そういったことに係わりながら、特に社会的ひきこもりでは、今年で5回になります全国的な支援者の集まりがございました。そういう活動をしております。

それから、若者の文化活動など社会教育を通じて、例えば、昔は青年団というのがありました。青年団は今、都市部からどんどんなくなっています。青少年の組織化は難しくなってきました。残っているのは島という単位です。

それが今、埼玉の高校生が、エイサーとか、そういう文化活動で元気になったりするということもあります。ダンス、音楽を含めて、子供達が持っている可能性を引き出すというか、そういう視点での施策が必要かなと思います。

特に、高校生は学校が広いものですから地域という感覚はありませんけれど、そういう中で区として何ができるかというものを考えてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

【川口雅敏委員】 板橋区議会議長の川口雅敏でございます。私は、志村坂下小学校、あと志村第三中学校の元PTA会長を務めておりました。そして、地域におきましては蓮根青健の一部員として地元と色々活動をしているところでございます。

今日は皆様方のご意見を聞きながら、また、少しでも自分の意見を言いながら、子供達の健全育成のためにご尽力できればありがたいかなと思っております。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

【大田ひろし委員】 皆さん、こんにちは。このたびは、1年間、文教児童委員の委員長をさせていただきます大田と申します。

私も、この青少年の問題を考える上で、今一番、自分の頭の中にあるというものは、この選定理由の中の冒頭にもありましたけれど、情報化の急速な進展による、例えばパソコンとか携帯とか、あるいはテレビとかゲームといった、孤立化する道具が年々普及している中で子供達が本当にきちんと育っていけるのかどうか大きな問題だと思うのです。

そういった中で、今のこういった社会を通過して大人になった方々が子育てができない問題。特に、児童虐待の問題というのが今は社会問題になっていますけれども、生まれたばかりの子供を壁にぶついたり、頭を叩いて、くも膜下出血を起こすようなことが毎日毎日起こっていることは、どこかにこういった原因があるのではないかなと、自分自身も身につまされる思いです。ここをどういうふうに、知恵を絞って解決していくのかは非常に大きなテーマだと思っております。

その中で、今回、青少年問題協議会が立ち上がったわけがございますけれども、先程から

何人かの方もおっしゃっていますが、私は、大人の観点で中高生の居場所をどうしたらいいのかも大事ですが、実は、中高生の子供達が、今、何を求めているのかを、我々は知っていかなければいけないのではないかと。

特に、こういったニーズ調査というものが、今、一番必要であって、できればこの協議会と並行的に中高生のアンケートみたいなものをしていただいて、彼らが何を求めているのかを我々がきちんと把握することが一番大事かなと思っております。

高田修委員からもありましたが、こういった中高生が集まる場所がないことも言われております。一方で、今は少子高齢化社会でございまして、人口が減少し、なおかつ小中学生にしてもピーク時から半減している人口の中で、学校の建物だけは厳然として、きちんと建っているだけです。そういった意味から、今後は高齢化が進みますし、そういった中高生の居場所づくりにおきましても、あるいは学校の適正配置を考える上で、こういった建物を高齢化に使うとか、子供達の、もっと精度の上がるような中高生の居場所づくりに使うという発想を私達は持っていかなければならないのではないかという思いもしております。

できれば、こういった角度の中から、1年間、小委員会を中心に議論していただいたり、私自身もそういった意識を持って、この青少年問題は考えていきたいと思っております。どうか、今後ともひとつよろしく願いいたします。

【須永一男委員】 現在、昨年度立ち上がった、東京都の学校問題解決サポートセンターで相談員として、今年2年目になったところです。

退職前に、板橋区で10年間、中学校の校長としてお世話になりました。前職の時に、私としては、中学生に豊かな体験をさせることが大事だろうと考えまして、学校行事も、できるだけの体験をできる、そういう活動に取り組んできたつもりです。

ただ、体験と言いますと、私に言わせると観光体験が圧倒的に多いのです。例えば、私は農業体験を中心にやったのですが、観光牧場とかそういうところで観光としての体験ですが、私は農家をお願いをいたしました。そして、少なくとも1日は作業員として使ってほしいということでやりましたが、手前味噌ですけれども、それが、大変子供達も感動して、例えば簡単に言いますと、仕事ぶりひとつも、ある蘭農家で、蘭を入れる籠があるのですが、うず高く積んであるのです。そこのご主人が、「その箱をこっちに持ってきて」と言いましたら、男の子が籠をぶらぶら振りながら運ぼうとしたのです。そこで、そのご主人は、私のお願いしていたことがよく理解してくださったものですから、怒鳴りつけまして、「ばかもん、こういうふうにつんだ」と、うず高くなっているのを下から持って、1人でやったのです。それから、また巡回して、2時間後に私が行ってみましたら、働きぶりが全く違っているわけです。

そういう体験をさせて、子供達は嫌がるかなと思いましたが、実は、後で聞いた話ですが、私に内緒で長期休み中にその農家に泊まり込みでお手伝いに行っていたという子が出まして、このテーマでもある自立が本当に目に見えて進んだなという経験を持っております。

全てが上手くいくことなのかとは思いますが、大人が準備をした健全育成ではなくて、青少年が主体的に活動できる場を用意することが大事なのかなと常日頃考えております。

そんな意味で、今のサポートセンターの話に触れますと、学校と保護者のトラブル、それから解決できない難しい問題が飛び込んでくるわけですが、ほとんどが、子供が置き去りに

されていて、大人同士の空中戦になっておられるのです。当の子供に接触をしてみると、子供は何とも思っていない。大人の戦いを、むしろ今の子供の言葉で言うと「うざったい」と感じている例がほとんどであります。

そんなことで、子供の意見を中心に解決するという活動を今しているわけですが、そんな意味でも、私なりの考えが少しでもお役に立てばと思ひまして、お引き受けさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

【善本久子委員】 4月1日に板橋有徳高校の校長に着任いたしました善本でございます。こちらに参りますまでは、都の教育委員会におりまして、学校経営支援センター、それから、その前は本庁教育庁の指導部で、高等学校教育指導課で生活指導を担当しておりました。

都立高校は約200校ございますけれども、そこで起こる事件、事故、それから先程、須永先生がお話になった苦情等も含めて、年間200件ぐらいありますでしょうか。その全てを見てまいりましたので、今、高校の中でどういったことが問題になっているのかも、その中で見てまいったところでございます。

私どもの板橋有徳高校は、ご承知のとおり、平成19年4月に志村高校と北野高校を母体校として、徳丸地区に開校いたしました、新しいタイプの単位制の普通科高校でございます。私どもの教育方針は、お手元に、僭越ながら、せつかくの機会と思ひまして、資料を持ってまいりましたので、また後程、ゆっくりご覧いただければと思ひますが、「育て、鍛え、伸ばす」をキャッチフレーズとして、規律ある学校生活を通して品位と教養を深め、新しい価値を生み出す自由な精神を培い、国際社会で先駆的、指導的な役割を担う人材を育むということで、既にご承知の皆様もおいでかと思ひますが、そのような形で、かなり規律を厳しく指導している学校でございます。

また、集団での体験活動等も大変重視をしておりまして、文部科学省の豊かな体験活動推進事業の指定校にも選ばれまして、宿泊体験を通して集団と個の有り方から、自立的な人間はどういうものかを自ら学んでいきます。フレッシュマンキャンプという1年生は全員参加のプログラムですとか、それから希望者による夏にマレーシアへの研修旅行を行っております。また冬には、福島県のプリティッシュヒルズへ英語研修ということで、これは1年生が全員で行くことになっております。そういった活動も行っております。

また、スポーツと芸術を愛する校風を確立していきたいと考えておりまして、私どもには箏曲部という部活動がございまして、地元の小学生の皆さんに聴いていただいたり、学校に出かけて行って箏曲部が演奏をしております。お陰さまで大変喜んでいただけて、また来てほしいということで今年もご依頼を受けております。

それから、演劇部がミュージカルの「ウィキッド」を地元で演じて、そうすると本当に小さいお子さん達がすごく喜んでくださって、「ぜひまた」というお話もいただいています。そういった活動も通じて、本当に地域に愛される、地域に根差した新しい学校づくりを目指しております。

何分、まだ大変新しく、若い学校でございます。至らぬことも多いかと思ひます。ぜひ、また私どもの学校についてのご意見も、機会があったらお伺ひしたいと思ひますし、この板橋区の青少年健全育成のために、少しでもお力になればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【猪田佳一委員】 本年度、中学校でPTA連合会の副会長をさせていただきました猪田と申します。また志村第五中学校でPTA会長をさせていただいています。蓮根は、結構、青健が盛んでありまして、スポーツ大会やソフトボール大会などの数多くの行事に私達の中学校からも参加させていただいております。ただ、参加させていただいているのですけれども、参加するのはごく一部の生徒でありまして、全員が参加できるような体制は整っておりません。

それと、今回の問題で私が思うのは、大田先生もおっしゃったように、子供は何を求めているのかというのが一番大事であると考えております。

今回の青少年問題協議会で私も勉強させていただきますので、ひとつよろしく願いいたします。

【高田教子委員】 このたび、都立大山高校のPTA会長になりました高田と申します。よろしく願いいたします。

青少年問題は一番、高校生が色々な意味で多いのではないかと思います。特に大山高校は、ご存じの委員さんもおられるかと思いますが、本当に荒れたことがございまして、子供達の言動ですとか行動、服装とか、そういったものも、とても大きな問題になっていたのではないかと思います。それが、ここ3年ほどで、入学式に行くと分かるのですけれども、子供達の質ががらっと変わりました。

中学校から高校に入るのがとても難しく、都立高校へは、こういった時世の中で人気が出てきているというのも、もちろんあるのですけれども、それによって広範囲の方がいらしています。広範囲の方が来たらというのも変ですけれども、板橋の方だけでなく、色々な方が混ざってくることによって活性化されたので、子供達の雰囲気もすごく変わってきています。

それによりまして、子供達同士が一番問題なのは、先程言った地域とのかかわりが少ないことです。都立大山高校に関しましては、近くの保育園との実習もさせていただいております。こちら側も少しずつ、子供達、地域との交流をするというところでは、いいことかなと思っております。

今回、PTAの親達も大分層が変わってきておりますので、親達同士も協力していかなければいけないというのが、実は私としては強く感じているところがございますので、それも含めまして今回は検討させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【高田修委員】 中高生のお話をしているわけですがけれども、小学生の問題も避けて通れない問題です。したがって、地域では、小学生に対しては非常に密接な関係を持ってやっているわけで、非常にうまくいっていると思います。例えば、商店街の職業体験、または老人会との色々な交流。そして地域活動では運動会だとかスポーツだとか、お祭りだとか、またはキャンプ、そういうものに参加をさせていただいて、地域の人と小学生が非常に係わりを持っているということで、これは非常にいいことだと思いますが、中学生になると、この辺が一部変わってきて、地域との係わりが非常に少なくなる。ほんの一部の中学生は、ジュニアリーダーとか少年野球とか、あとは運動会などに足の速い人は出てくるわけですが、それ以外の中学生はなかなか出てこない。地域との係わりが薄くなっていくというのが現実です。そ

れから、高校生になると、さらに地域との係わりが全くななくなってくる。接点がない。そういうことが一番問題ではないかと思うわけです。

青健としては地域の問題を掲げながら、中学生と高校生をどのような形で地域の中に取り込んで、一緒に仲間として活躍してもらおうことができるのかということで、色々と検討しているわけです。青健でやったことの一つには、東上線の駅の下でトンネルで、暗い、ごみが捨ててあって汚い、薄汚れた街路等を直すのに壁面に絵を描こうということで、中学生を動員して描いてもらいました。小学生と中学生で3箇所ぐらい。壁面がすっかりきれいになって、ごみも捨てられなくなり、それは、単にきれいになっただけではなくて、子供達が、自分達が絵を描いたことによって、その周りが明るくなって役に立ったということが、いい教育に私はつながっていると思っています。

そういうことで、中学生・高校生の交流をどうするかが一番大きな問題ですが、一番は、これはいつも言うのですが、親の問題です。子供のことが色々と議論に出るけれども、親の問題をどうするのか。

例えば、学校で授業参観とか色々な相談事があっても親が出てこない。仕事の関係で出られないというのはしょうがないですけども、親の心の持ち方。自分は参加できないけれども、自分の子供をきちんと育ててもらうにはどうしたらいいかという気持ちの持ち方が大事で、そういう教育というものが必要ではないかなというのが1つあります。

それから、もう一つは、小中高等々のPTA会長や役員さんが一生懸命子供のため、学校のため、教育のためにやっていますが、ある年度が過ぎると卒業と同時にそれはおしまいになってしまうのです。私は、自分の子供がいるから役員になったというのはいいいけれども、そうした色々な経験を通して、卒業した場合、その経験を地域とかその他の団体に生かしてもらおうように出てきてほしい。

ですから、私は、常に色々なPTA関係の人にもお話をしますが、「PTAをやめておしまいじゃない。これからがあなた達の仕事なんだよ」ということで、私は、言っています。また自分のところの町会もPTA役員をやった方を全員役員にして、民生委員から体育指導員とか、それから町会の役員等々はPTAを経験した人にしていきます。

したがって、町会新聞を出して10年以上経ちますけれども、町会単独でできるというのは、お金を使わないのです。PTAの広報をやっていた人を引っ張ってもらっているのです。本当にプロ並みの新聞ができていますけれども、そういうふうには、みんなが自覚をして良くすることを考えてやらないと、良くなれないと思います。

一番大事なことは、中学生・高校生のひきこもりだとか不登校の生徒が行くところがない。それから、相談相手がないということが一番の問題です。集まれるような居場所を作っていただいて、そして、それを地域で支えることが大事です。

ですから、板橋も「教育の板橋」を打ち出しているならば、子供の教育、青少年の健全育成に力を入れていくべきだと思っています。そういう意味で、私も青健の役員の1人として、何とか少しでも子供達のためになりたいということで、出てきているわけでございます。よろしく願いいたします。

【高野佐紀子委員】 各青健の中から、青健を母体といたしましてジュニアリーダーの育成などを担当しております、青少年委員の代表の高野と申します。どうぞよろしく願います。

たします。

ジュニアリーダーは小学校4年生から高校3年生まで。また、高校を卒業いたしますと顧問という形で活動いたしまして、各青健の中で、野外活動でしたり、運動会や地区の行事などに積極的に参加して、地区の行事を盛り上げております。また、それぞれ自分達で研修などを行いまして、地域と、それから子供達の活躍の場という面では、かなり色々な可能性をこれからも担っていけるのではないかと思います。

ただ、今回、色々と問題がありますように、小学生での活動というのは非常に多いのですが、中学生になりますと、それまで熱心に活動していた子供達が部活動ですとか、また高校生になりますと地域が広がったり、土曜や日曜日も学校の行事があつたりということで、ぐっと参加が減ってしまいますので、今回ここで取り上げられている問題は、ジュニアリーダーにとっても同じような問題があるなというのを感じております。ですから、こちらで色々なご意見や何かを伺いまして、またそれも青少年委員の中で一緒に考えていけるのではないかなと思っております。

それと、青少年委員会で、台東区の中学校生徒会の中学校サミットに参加させていただいたことがあるのですけれども、各中学校のPTAの役員さん達が日頃の活動を発表し合って、大変素晴らしい場だったなと思っております。また、板橋区の中でも、生徒会活動や何かが発表できる場もあるといいのではないのかなという感想を持ちました。

どうぞよろしく願いいたします。

【日比野幸男委員】 日比野でございます。よろしく願いいたします。ボーイスカウトはこの4月から組織変更いたしまして、従来は「ボーイスカウト東京連盟板橋区地区協議会」という組織だったのですが、豊島と北と板橋の3区のボーイスカウトが一緒になりまして、「ボーイスカウト東京連盟城北地区協議会」になりました。行政の窓口として各区に連絡会を作るということで、4月18日に城北地区協議会ができて、その傘下に板橋区ボーイスカウト連絡会が作られたということをご案内しておきます。

ボーイスカウトも、少子化の関係で組織変えになったのですが、私どもの団によってはスカウトハウスという居場所がありまして、例えば坂本区長もご自分のボーイスカウトの団をお持ちですが、坂本区長のお家には5団のスカウトのスカウトハウスがあります。

それから、私の団は10団という団ですが、倉庫だけお借りしていますからスカウトハウスではないので、子供達が集まる場所としては板橋区の大原社会教育会館の会議コーナーを使わせていただいています。団によって色々居場所が違うのですが、大半の団が子供達のために集まれる場所を作ろうということでやっておりますが、いかんせん中高生は夜に集会を持ちますと問題があります。土曜日はどうかといいますと、土曜日は私立学校は午後まで授業がありますので、公立高校の中高生は集会に参加できても、私立学校の中高生は参加できないということで、うちの団では、高校生は夜の集会を認めております。

大体が日曜日の午前・午後に集会を持つ形で中高生に集まりを持たせていますが、先程来、子供は何を考えているかということについてニーズ把握した方がよろしいのではないかと思います。お話がありましたが、私達ボーイスカウトの真意としては、よりよき社会人をつくるために、彼らに何をしてやれるか、彼らは何を求めているかということで、彼ら自身からプログラムを出させて、彼ら自身にチャンスと一緒に作るように心がけています。

ただ、非常に今は子供達のニーズも多様化していますので、ボーイスカウトの指導者だけでは技能や考えが及ばない時には、区にお願いしたり、あるいは板橋区内のスポーツ団体をお願いをしまして、子供達が望んでいるスポーツのご指導もお願いしています。

例えば、アーチェリーを覚えてきたスカウトが、ぜひアーチェリーをもっと勉強したいという時には板橋区のアーチェリー連盟をお願いをしまして、坂下のアーチェリー場で実技指導や理論の教育をお願いしたこともございます。

要は、中高生が何を考えているか、何をしたいかということに、私は団委員長ですけども、どこまで団として、あるいは実際に指導をしている隊長が応えられるかによって、ボーイスカウトの魅力の1つになるのではないかと考えています。

すべてが楽しいことばかりではなくて、奉仕という辛いことも彼らには与えられるのですけれども、そういうことを繰り返しながら成長を願っているのがボーイスカウトでございます。

区内には今、川口さんが育成会長の板橋第9団という団もございます。ボーイスカウトだけではなくて、ガールスカウトも組織としてありますが、お互いによりよき大人をつくる。ボーイスカウトは「よりよき社会人をつくる」、ガールスカウトは「よりよき家庭婦人をつくる」という体で、この運動を進めてまいりました。

今はスカウトが減って本当に残念ですけども、板橋区のご協力を得て、またこれからスカウトを増やすように努力をしていきたいと思っております。

また、この協議会に委員としてお声をかけていただきまして、場を与えていただいたことを感謝申し上げます。

【三井昭夫委員】 三井でございます。今まで色々な話を聞いていますけれども、正直言ってしまうと、中高年は普段は結構忙しいです。私も大学生、高校生という子供を持っているのですけれども、部活だとか、学校の色々な研究とか、そういったことで時間は確かになくて、忙しく動いています。

その中で、息抜きというわけではなくて、何か地域に根付いてもらえればいいなという思いは非常にあります。今、区長からお話がありましたけれども、私は十五、六年前から小学校の学童野球を教えている者ですけども、こここのところ卒業生の子供達が、もう二十五、六歳の子達が、ある程度時間が今、空いたのか、たまに遊びに来てくれることがあるのです。大勢ではないのですけれども、そういった子供達もいて。だから、子供達は地域に根付こうとしているわけではなくて、何かチャンスがあれば根付きたいなという気持ちはきっとあると思うのです。

ただ、僕のチームも保護者の方が監督さんやコーチさんになって、指導していくのですけれども、以前は、大体の方が、子供が卒業すると同時に監督さんもコーチさんも降りてしまう。それで、そのチームを辞めてしまうということで、卒業して数年間経って、またそのチームに、たまには後輩の指導に行こうかなと思うのですけれども、そこに自分達がお世話になったコーチや監督がいれば入りやすいのですけれども、自分達がいた時の大人の顔ぶれがないと一歩避けてしまう傾向があります。

ここ数年、私を含めて今現在、うちはスタッフが40人ぐらいいるのですけれども、20名ぐらいの方が、子供がチームにいなくても数年は係わってくれるということで、知った顔

がそこにいるだけで入りやすい。それが一番いいことなのかなと思っております。

本来であれば、学校で、いつまでも先生がそこにずっといて、いつでも、大学行く時に何か相談事があれば学校に行って、当時の担任の先生と話したいこともあるとは思うのですが、学校というのは当然異動があるもので、これは仕方がないことです。だから、学校の先生というのは当然地域には根付けませんけれども、我々地域の人間は地域に根付くことが必ずできるわけです。

そういったことを、僕もそうですけれども、僕のチームの数名はそういうことを考えて、今でも老体に鞭打って子供の指導をしているわけです。こここのところで、去年から始めたのですが、そういう20歳、22歳ぐらいの子供達が来てくれることで、懐かしいなということで、「じゃあ大人のチームを作ろうじゃないか」ということで、卒業生と僕らで1つのチームを作ったりして、活気をつけていこうと我々は努力しているところです。

だから、高田会長が言ったように、地域の大人とのつながりというのが一番のポイントであって、大人がどう子供のことを考えていくか。それが一番重要ではないのかなと思います。

僕もそういった形で若い子供達をまた戻して、子供達の育成をしてもらいたいということで動いておる次第でございます。

【酒井律子委員】 酒井です。初めまして。よろしく申し上げます。

保護司というのを皆さんもご存じだと思いますけれども、色々な罪を犯した人とか、非行を犯した人達が、家庭裁判所に、もしくは保護観察所を通じて私達のところへ来るのです。それで、大人ですと社会復帰させるための手助けをする立場にあるものなので、本当に私達が見ている子というのは、通常、普通の学校のお子さんとは違うと思うのです。色々と問題が起きた子を見ているので、色々今までのお話を聞いていますと、皆さんの考え方と違いかも分かりませんが、親に問題があるとか色々言われましたけれども、親がお子さんに目が向いていないのではないかと思います。

それで、なぜ非行をするかという、子供は、悪いことをすると親が自分に目を向けてくれるというので、それで、わざとそういうことをするという心理もあるのです。皆さんがそういうわけではないですけれども。悪いことをすると親はまた叱るけれども、そういうふう、とにかく子供は、親の目が自分に向いているというのを確かめたいのだと思うのです。だから、親の教育というのがとても大事ではないかなと、子供さんも、もちろんそうですけれども、親も一緒に何かできればいいんじゃないかなと思います。

話が変わりますけれども、保護司会と厚生保護女性会が連携して、色々とお世話になっております、「学び舎の会」というのをやっております。それは、中学生の活動をしていらっしゃる、去年は琴とか太鼓とか、そういう中学生が演奏する場を、私達が中学校の体育館を借りてやっております。

そうすると、子供達はそういう出番があるというので、すごく生き生きとしているのです。その前に、非行の話とか、そういう映画とかをするのですが、そういう時は、親御さんって余り見てくださらなくて、自分の子供の時だけ見に来て、さっと帰られたりするので、もったいないなと思っております。そういうので、もう少し親子で何かできるというのがあればいいのではないかなと思いました。

【魚住善彌委員】 私は、今年の2月で定年を迎えまして、22歳で大学を卒業した後、明治乳業という会社に入りました。色々な地区で色々な業務をやってきました、7年前、55歳の時に「ミルク館」という見学館で仕事をしていました。そこで、小学生、中学生、高校生、大学生、海外の人たちといった色々な方達がいらして、牛乳についての案内とか健康の話とか、また、自分勝手ですけど色々な話をしたりして、年間大体2万から3万人ぐらいの方とのお話をしました。そこで話し方によって色々話の受け止め方が違うなと思いました。

教育なんておこがましいことですけど、少しでも色々な人達に色々なことで会話をできれば、自分にとってもすごくプラスだし、それで人が少しでも感動してくれれば最高だなと思っているのです。

多分無理じゃないかなと思って公募をさせてもらったら、採用通知が来たもので、嬉しいような責任を感じるような、本当に不安な気持ちだとか、それぞれあるんですけど、そういう面で、これからは色々なことを、自分というものは自信が無いのがまた自分のいい部分じゃないのかなと思うんですけど、少しでも子供達と色々な生の声とか、また皆さんとお会いできたということだけでも良い経験になっているなと思って、そういうことで、これを活かしていきたいなと思っています。

皆さんにも色々教えていただいて、自分が成長させてもらいたいなと思っています。よろしく願いいたします。

【北川容子委員】 板橋区の教育長をしております、北川と申します。よろしく願いいたします。

色々な方が色々なお話をされていますけれども、ここの会議に入る前に、人権擁護員の皆さんと話をしていた時に、最近の大学生ってすごく変わったところがあるという話をされまして、「何ですか」と言ったら、大学の食堂で1人で食事ができなくなっている子が多くなっているというのです。

大学食堂で1人で食事ができないというのはおかしなことで、自分が食事をしているところを他人に見られたくないという現象で、下手をするとトイレで食事をしている子がいる。そういう状況を聞いて、「えっ」と本当にショックを受けたんですけども、1人1人の子供達が、自分に自信がない。

最近、自己肯定観がないということが非常に大きな問題になっていますけれども、色々な生活で育っていく過程で、「これができた」、「僕はこれができるんだ」、「私はこれに自信があるんだ」という、そういう人に認められた体験をすることがなく育っていつてしまっている、そういう結果になっているのではないかという話を、ついさっきしていたばかりです。

私は、高校生は、中学からの受験を経由しての高校生しか見えていないのですけれども、中学生を見る限りでは、板橋区の中学生は授業時間なども本当にしっかり、大人しく授業を聞く姿勢ができています。何年か前に比べたら、私は驚くほど姿勢がいいなと思うのです。

ただ、だからといって学校にいじめがないのかとか、その子供達が本当に全てに自信を持って生きているのかというと、そうではないだろうなと思っています。

私は、どうしても公立の中学の場合は、生活指導中心でずっと言っていますから、生活指

導中心から授業中心の中学校に何とか変えていくことによって、授業を楽しくすることによって、興味をわかせることによって、生活指導もできていくという学校にしたいということで、今、中学校の先生方と一緒に努力をしているところです。

生活指導と部活中心ですね。部活に入っている子供は、確かに忙しいですけれども、まだ自分でやるのが分かりますけれども、結構、部活に入らないで、「帰宅部」と呼ばれている子供達がたくさんいて、その子供達の行く場所がなくて、コンビニなどでたむろしていると、すぐ「何とかしてくれ」と電話がかかってくる。そういう状況があります。

その子供達が、友達と一緒に何かをやりたいのだけれど、どこで何をしたいのかというのが、今まだ分からずに右往左往している状況なではないかなと思っています。

それから、もう一つ、部活が中心で、部活に入っていればいいのかという、意外とそうではないのではないかと最近思い始めました。というのは、公立ですから、体力の育成と人間の育成というところで部活があってほしいのですけれども、どうしても勝負にこだわって、勝ちたいというところが出てくると、月曜から日曜まで、ほとんど休みなしに部活動をする状態が出始めていまして、これは検討しなければいけないという問題も出ています。

その時に、1日休みになったら、この子供達は何をするのかと言ったときに、子供にすれば、今の状態であれば、部活をやりたいと言うのだらうと思うのです。その辺、中学校だとか高校の時は、すごく短い時期ですし、本当はすごく楽しい、色々なことを体験できる時期だと思うので、子供がみんな選択できる色々な選択肢を作りたいなと思っています。

その辺を含めて、子供はすごくやる気がありますし、私は素直に育っていると思いますので、子供達が自分の意思で動けることができれば、これは一歩、二歩前進していくであろうと思います。その辺の論議もぜひ、お願いできればと思っています。

【茂木良一委員】 教育委員会事務局次長の茂木でございます。私は教育委員会の中で実務的な仕事をしているところでございますけれども、教育委員会といっても、大きく分ければ学校教育と社会教育の2つになろうかと思えます。

それで、今、板橋区の教育の振興ということで、それを目指して学び支援プランという計画で一生懸命やっているのですけれども、実はその中で、教育委員会が所管しているのは中学校までです。高校に行くと、ブツツと切れてしまうのです。

先日も、板橋区におきまして子供読書活動推進計画をつくりました。子供達が本にいつも慣れ親しんで、読み、本の中で疑似体験をすること考えていたのですが、対象をどうしましょうかといった時に、高校生と入れたかったのですが、高校生について分からないため、中学生までを対象としてつくりました。

私の経験から言えば、例えば、先程、有徳高校の善本校長先生からご挨拶がありましたけれども、徳丸の青健で、前の校長先生と会って色々話した時も、「うちは中学校までですよ。先生のところは高校でしょう。そここのところでは何か、もっとコラボできませんか。色々な活動をしていますよ。」という話をしました。それを全校的に、区内にいっぱい学校があるから、もっとべつとりくつついてやりませんかという話をしたのを覚えています。

前に保育課長をやっている時に、実は大山高校の生徒達が保育園に来て保育体験というのをやらせたのです。その時の経験で言うと、失礼ですけど、茶髪の子と、爪の伸びている子、マニキュアをしている子、そういう子が保育園に来ると、なかなか帰らないのです。最後ま

で子供達と遊んでいるんです。小さい子供に、「おねえちゃん変だね。」とか「お兄ちゃん何それ。」とかやられていても、ずっと最後までいる。

だから、その時に、形は色々、私どもの感覚からすると違うけれども、中に流れている部分はそうではない部分はいっぱいあると。その子達が、先程、教育長も言いましたように、それこそ夜の8時、9時にコンビニの前で座り込んでラーメンを食べている。こんな姿を見ていると、どうしたらいいのかなと思っておりまして、今回の中でも、とりわけ皆様のご意見を伺いながら、中高生をどうしていくのかという部分で、中高生にとっても迎えられる形でありたいなと思っております。

以上でございます。よろしく願いいたします。

【坂本健会長】 皆さんから大変貴重なご意見、または体験談をいただきまして、本当に心強く思ったこともございますし、また、色々な課題を共有することができたと思ってございます。ご意見や質問などございましたら、どうぞ。

【川口雅敏委員】 皆さんの自己紹介の中で、善本先生のお話のご挨拶の中で1点だけ伺いいたします

200余りの都立高校の中で色々な事例を経験したというお話を聞きました。その中で、どの学校でもこういう問題があるんだという共通の問題点は何なのか。そしてまた高校生ぐらいになると、中学もそうですけれど、薬害についての問題はどうなっているのか。

その2点、お分かりだったら教えてもらいたいと思います。

【善本久子委員】 中学までと違いまして、高校というのは、本当にそれぞれが特種な課題を抱えているケースが多いのですけれども、少しお話を離れるところがございます。

実は、東京都でも、ひきこもり対策というのは非常に重要視しておりまして、これは教育委員会ではなくて青少年治安対策本部でひきこもり対策を、ちょうど私がおります時に始めていまして、私もそのメンバーの1人だったのです。

そこで、様々な調査をしていた部分では、ひきこもりになってしまうのは、例えば小学校、中学校の頃から不登校ぎみのお子さん達が、そのままそうになってしまうイメージを抱かれがちですけれども、割と職に係わる部分で、就職してから、あるいは就職につまずいてということ、ひきこもるケースが、思っていた以上に、実際に調査してみると多いことがあって、これを何とかしていくためには、非常に職業教育を含むキャリア教育というのがとても重要なんじゃないかと。

ですから、目的意識が持てないと様々な問題行動に出ることがあるので、何が課題ですかというご質問に対して、正答ではないかもしれないですけど、今は小学校からキャリア教育をと、極端な話、幼稚園からキャリア教育を受ける話もありますけれども、自分がこれから先どうしていこうみたいな、何をやりたいのか、やりたい目標みたいなものがないということで問題行動が出てくるケースは共通してあるのかなと感じています。

ただ、出てくる課題というのは様々です。ただ、心の問題というのが、私も、都に奉職して、もう二十数年になりますけれども、以前と比べると、全部の課題の中で多くなってきているのかなという感じがします。

ですから、我々も非常に心のケアというものを重視していますし、先程、北川先生から、食事を1人でできないというお話がありましたけれど、実は、今のところにも生徒が校長室に昼ごはんを食べに来る子が何人かいるのです。うちは、広々したランチルームもあるのですけれど、でも、「どうして来ているのかな」と話を聞くと、「教室に居づらくて」と言う子がいて、そんなふうにして私のところに来て、お昼を食べているお子さんも、今5人ぐらいいるのですけれど、毎日来るのです。

そんなこともあって、心に何か悩みを抱えているお子さんが増えていることは確かです。お尋ねに正解できていないかもしれませんが、お答えをしておきます。

それから、薬害の問題につきましては、ちょうど私が教育庁におりました時に、生徒のそういう問題が非常に大きく出てきたことがありまして、臨時の校長連絡会をしたりとか、実態の調査をしたりとか、対策自体をしてございますけれども、その後、今のところ、余り大きなことにはなってはいないのですけれども、教育庁としては、どの学校でも薬物防止の授業を必ず1年に1回やるようにということで指示を出しまして、それをどうやっていくかを全国に調査開示を求めているところでございます。

その先の大学生でかなり大きな問題になりましたので、ただ、それは確実に下に下りてくる部分であろうと思いますので、非常に重要視して、公立高校、全体で取り組まなければいけないということでございます。

【高田教子委員】 善本先生のお話の中で、都立高校の薬害の問題について、今回、入学する子供達に対して、PTAから「薬害について」というお手紙が届きまして、新1年生に関しましては配付させていただいています。

それにつきましては、うちの学校は、その他にもカウンセリングの先生を東京都から派遣していただいておりますので、東京都から来ていらっしゃるカウンセリングは2年間の契約です。それで、ちょうど2年の契約であるということでございましたので、それに伴いまして、まだ完全な公表をしていいのかどうか、実は副校長先生と先日お話ししたばかりだったのですが、カウンセリングの先生が、今までは子供や先生方に対して教育について、こういった事例があつて、こうしてという話をしていたのですが、本年度は、これを機にということで、保護者向け、先生方、親、高校生、心の問題についてカウンセリングしていこうと用意しています。そういった形が、有徳高校さんも、先生がきっちりされているので、これから色々やると思うのですけれども、高校生も都でそういった動きをされていると思いますので、また、それについて何か板橋でやっていただければと思います。

【坂本健会長】 今の話に関連して、他にございましたらと思いますけれど、どうでしょうか。

【魚住善彌委員】 先程もお話しさせてもらったのですが、ミルク館というところで小学校のレベルで考えますと、年間で大体百四、五十校、いらしていただきましたが、大体3年生が校外授業で多いのです。

これは難しいことですが、先生によって「この学校は本当に上手に先生が教えているな」とか、「この先生だったら教わりたくないな」とか、申し訳ないのですけれど。人間という

のはそれぞれの性格がありますから、がみがみ言う先生と、ある程度、子供達の気持ちをつかむ先生とか、本当に頭ごなしに怒るような先生とか、時間ばかり気になる先生だとか、本当に、こんなことを言ったら申し訳ないが、「この先生でいいのかな」というのも、確かに、非常に多かったのです。

だから、僕も子供の時に、色々な先生に、皆さんもお会いしたと思いますけれど、「この先生に勉強させてもらって数学が上手になったな」とか、「この先生で理科がだめになったな」とか、振り返ってみるとあるわけですが、先生に責任を押し付けちゃいけないのですけど、どこでどう人間がつくられていくのか分からないというのが、現実にはすごくあるなと思います。

【坂本健会長】 色々と、まだまだ話をしたいところですが、予定の時間がまいりましたので、この辺で、皆様の自己紹介と、また、皆様のお話を伺う時間を終わらせていただきたいと思います。

それでは、他に事務局から連絡事項がございましたらお願いいたします。

【生涯学習課長】 次回の予定をお知らせいたします。

先程、スケジュールのご説明の中でも申し上げましたが、今回は5月26日水曜日の午後3時から小委員会を開催します。会場はこちらの、同じ教育委員会室を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

【坂本健会長】 それでは、これをもちまして、本日の協議会は終わりたいと思います。大変どうもありがとうございました。これからもよろしくお願い申し上げます。